

ダイキンでは、報告内容に対する信頼性の確保のために、温室効果ガス排出量と水使用量、排水量、廃棄物排出量、化学物質排出量について、ビューローベリタスジャパン株式会社による第三者検証を受けています。

## ■ 検証の対象

### 2020年度の事業活動に伴う環境負荷データ

- ▶ダイキン工業の生産事業所4拠点、国内生産子会社8社、海外生産子会社44社の事業活動に伴う、スコープ1およびスコープ2温室効果ガス排出量、水使用量、排水量、廃棄物排出量、化学物質排出量
- ▶GHG Protocol Corporate Value Chain (Scope3) Accounting and Reporting Standardにもとづいて算定されたスコープ3排出量のうち、カテゴリー1(調達)、11(製品の使用)、12(製品の廃棄)の排出量

## ■ レビューの対象

### 販売した製品による温室効果ガス排出抑制貢献量

- ▶新興国におけるインバータエアコン(2020年度販売分)の使用に伴うCO<sub>2</sub>排出抑制貢献量
- ▶日本、欧州、北米、中国で2020年度に販売したエアコンの使用に伴うCO<sub>2</sub>排出抑制貢献量
- ▶全世界で2020年度に販売したエアコンの低温暖化冷媒R32への切り替えによる温室効果ガス排出抑制貢献量

**独立保証報告書**

ダイキン工業株式会社 殿

ビューローベリタスジャパン株式会社(以下、ビューローベリタス)は、ダイキン工業株式会社(以下、ダイキン工業)の依頼に基づき、ダイキン工業によって提供されたサステナビリティ情報に対して限定的保証業務及びレビュー業務を実施した。この保証報告書は、以下に示す業務範囲に含まれる関連情報に適用される。

**限定情報**  
限定的保証業務における我々の業務範囲は、ダイキングループ サステナビリティレポート 2021 (以下、レポート)に記載された、又は内部報告を目的としてダイキングループの内部で報告された、2020年4月1日から2021年3月31日までの期間の、以下の情報(「限定情報」)に対する保証に限定される。

- ダイキン工業株式会社の生産事業所4拠点、国内生産子会社8社、海外生産子会社44社の事業活動に伴う以下のデータ
  - エネルギー総量 CO<sub>2</sub>排出量
  - HFC及びPFC排出量
  - 取水量及び排水量
  - 廃棄物管理数量化及び排出量
  - VOIC排出量
- ダイキン工業株式会社の生産事業所4拠点、国内生産子会社8社の事業活動に伴うPRTR対象化学物質排出量
- ダイキン工業株式会社の生産事業所4拠点の事業活動に伴う以下のデータ
  - 非エネルギー総量 CO<sub>2</sub>排出量
  - CH<sub>4</sub>、N<sub>2</sub>O、SF<sub>6</sub>及びNF<sub>3</sub>排出量
- GHG Protocol Corporate Value Chain (Scope3) Accounting and Reporting Standard に基づいて算定されたスコープ3排出量のうち、カテゴリー1、11、12の排出量

レビュー業務における我々の業務範囲は、ダイキングループ サステナビリティレポート 2021 (以下、レポート)に記載された、又は内部報告を目的としてダイキングループの内部で報告された、2020年4月1日から2021年3月31日までの期間の、以下の情報(「限定情報」)についての保証に限定される。

- 新興国におけるインバータエアコン(2020年度販売分)の使用に伴うCO<sub>2</sub>排出抑制貢献量
- 先進国及び中国で2020年度に販売したエアコンの使用に伴うCO<sub>2</sub>排出抑制貢献量
- 2020年販売したエアコンの低温暖化冷媒(R32、R1234ze)への切り替えによる温室効果ガス排出抑制貢献量

**報告範囲**  
レポートに含まれる限定情報は、レポートに記載された報告範囲と共に読まれ理解される必要がある。内部報告を目的としてダイキングループの内部で報告された限定情報は、ダイキン工業によって算定された内部報告範囲と共に読まれ理解される必要がある。

**限定と除外**  
以下に関する情報のみなる保証は、我々の業務範囲からは除外される。  
 ・定められた検証期間外の活動  
 ・「限定情報」として挙げられていない、レポート内の他の情報  
 限定的保証は、リスクに基づいて選択されたサステナビリティデータのサンプルと、これに伴って提供されている。この独立保証報告書は、存在するかもしれないすべての誤り、欠陥、虚偽表示を検出するための根拠とされるべきではない。

**責任**  
レポート内の限定情報の作成と提示は、ダイキン工業の責任である。  
ビューローベリタスジャパン株式会社又は報告範囲の作成に携わっていない。我々の責任は、以下の通りである。  
 ・保証業務の実施により、限定情報が報告範囲に準拠して作成されたかどうかについて、限定的保証を行うこと  
 ・レビュー業務の実施により、限定情報の信頼性と正確性について詳細を行うこと  
 ・実施した手続を入手した証拠に基づいて、独立した結論を形成すること  
 ・我々の結論をダイキン工業に報告すること

**評価基準**  
我々は、International Standard on Assurance Engagements (ISAE) 3000 (Revised), Assurance Engagements Other than Audits or Reviews of Historical Financial Information (E Directive for assurance reports dated on or after December 15, 2015) 及び ISO 14064-3:2006 Greenhouse gases - Part 3: Specification with guidance for the validation and verification of greenhouse gas assertions に準拠して保証業務を実施した。  
我々は、ビューローベリタスが定めるサステナビリティ報告に対する第三者レビューの手順を用いて、レビュー業務を実施した。

**実施した業務の概要**  
我々の独立した検証の一環として、我々の業務には以下が含まれる。  
 1. ダイキン工業の担当者へのインタビューの実施  
 2. 提供された限定情報の信頼性、選択された情報と目的のために使用されたデータの収集及び集計プロセスと、データの対象範囲及び報告範囲の確認

- ダイキン工業によって提供された文書による証拠の確認
- 定量的なデータの集計と分析のためのダイキン工業のシステムの確認
- 次の点に基づいて確認された以下の4箇所の現地訪問調査及びそのレポート審査の実施による、データの取流を避けるためのサンプルの検証
  - ダイキン工業 空調製作所
  - マックライ空調制御(蘇州)有限公司
  - マックライ空調制御(武漢)有限公司
  - グッドマンマックライ空調制御有限公司
- レポート審査
  - ダイキン工業 本社
  - Daikin Refrigeration Malaysia Sdn.Bhd.
  - Daikin Istima Ve Sogama Sistemleri San. Tic. AS
  - Goodman Manufacturing Company, L.P. DTP
  - Daikin Applied Americas, Stanton Facility
  - ダイキン工業 本社
- 限定情報についての集計計算の再実施
- 業務活動の変化、買収及び譲渡を考慮した、限定情報の前年値に対する比較

限定的保証業務で実施される手続は、合理的保証業務よりもその種類と期間が多岐であり、その範囲が狭い。その結果、限定的保証業務で得られる保証の水準は、合理的保証業務が実施されていると見られるよりも低い。

ダイキン工業の電議に基づき、COVID-19拡大防止のための措置として、我々は以下のことを承知した。  
 ・ダイキン工業本社に対して予定していた現地訪問調査の代替として、テレビ会議を通じてレポート審査を実施

**検証された温室効果ガス排出量**  
我々は、ISO14064-3:2006の要求事項に従って、温室効果ガスの検証を実施した。  
ダイキン工業によって作成された温室効果ガスに関する主張において検証されたデータは、以下の通りである。

スコープ	温室効果ガス排出量 [tCO <sub>2</sub> e]	算定範囲
スコープ1	602,205	ダイキン工業の生産事業所4拠点、国内生産子会社8社、海外生産子会社44社の事業活動に伴うエネルギー総量 CO <sub>2</sub> 、HFC、PFC 排出量
スコープ2 (100%ベース)	527,190	ダイキン工業の生産事業所4拠点の事業活動に伴う非エネルギー総量 CO <sub>2</sub> 、CH <sub>4</sub> 、N <sub>2</sub> O、SF <sub>6</sub> 、NF <sub>3</sub> 排出量
スコープ2 (マーケットベース)	484,214	
スコープ3 (カテゴリー1、11、12)	282,942,540	GHG Protocol Corporate Value Chain (Scope3) Accounting and Reporting Standard に基づいて算定及び報告されたスコープ3排出量のうち、カテゴリー1、11、12の排出量。但し、各カテゴリーにおける算定範囲は、ダイキン工業の決定に基づく。

スコープ3排出量の内訳は以下の通り。  
 カテゴリー11: 2,890,212 tCO<sub>2</sub>e | カテゴリー11: 235,338,292 tCO<sub>2</sub>e | カテゴリー12: 44,714,036 tCO<sub>2</sub>e

**結論**  
上記した我々の方法と活動に基づき、  
 ・限定情報が、報告範囲に従って適切に作成されていないことを示す事項は、すべての重要な点において認められなかった。  
 ・ダイキン工業は、我々の業務の対象範囲における定量的なデータについて、収集・集計・分析のための適切な仕組みを構築していると考えられる。

**独立性、健全性及び能力の表明**  
ビューローベリタスは、190年以上の歴史を有する、品質・信頼・健康・安全の社会的責任に特化した独立の専門サービス会社である。保証チームは、環境・社会・倫理・健康及び安全の情報・システム・プロセスに対する検証の実践において幅広い経験を有している。  
ビューローベリタスは、ISO9001:2015の要求事項に適合する認証された品質管理システムを採用しており、従って倫理的な要求事項、専門的な標準及び適用可能な法規制上の要求事項への適合に関する文書化された方針や手順を含む、品質管理の包括的なシステムを維持している。  
ビューローベリタスは、従業員が日々業務活動において、誠実性、客観性、専門的能力と配慮、機密保持、専門家としての態度、及び高い倫理基準を維持することを確実にするために、国際検査機関認定 (IFIA) の要求事項を満たす管理規程を、業務全体に対して実施・適用している。

ビューローベリタスジャパン株式会社  
 横浜市西区日本大通 18 番地  
 2021年6月28日

環境パフォーマンスデータの算定方法は「CSR・環境への取り組み」WEBサイトに掲載しています。